



フクビ 乾式遮音二重床システム

---

フリーフローアー SDG施工要領書

## 1.適用範囲

本仕様書はフクビ化学工業(株)製「フリーフロー-SDG」の床下地工事に適用する。

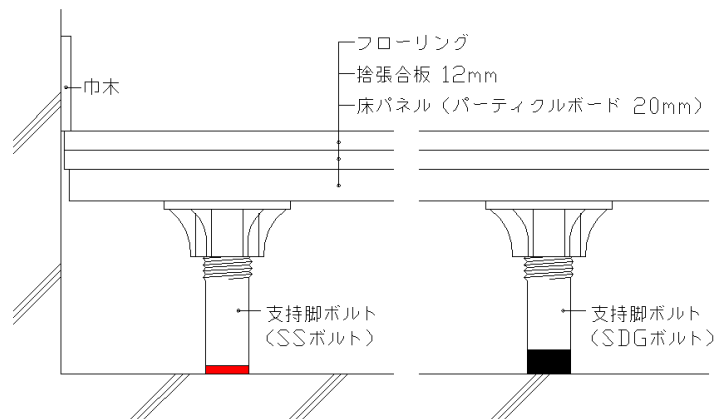
## 2.製品概要

### 2-1 工法概要

パーティクルボードの床パネルの四隅あるいは四隅と中央部に支持脚を取り付けて、パネルが独立して自立する「脚付パネル工法」です。

この自立した床パネルを捨張パネルにて一体化させて仕上げ材を施工する工法でレベルは床パネルに取り付いている樹脂製ナットにボルトをセットし、そのボルトを回すことによりレベル調整が可能です。

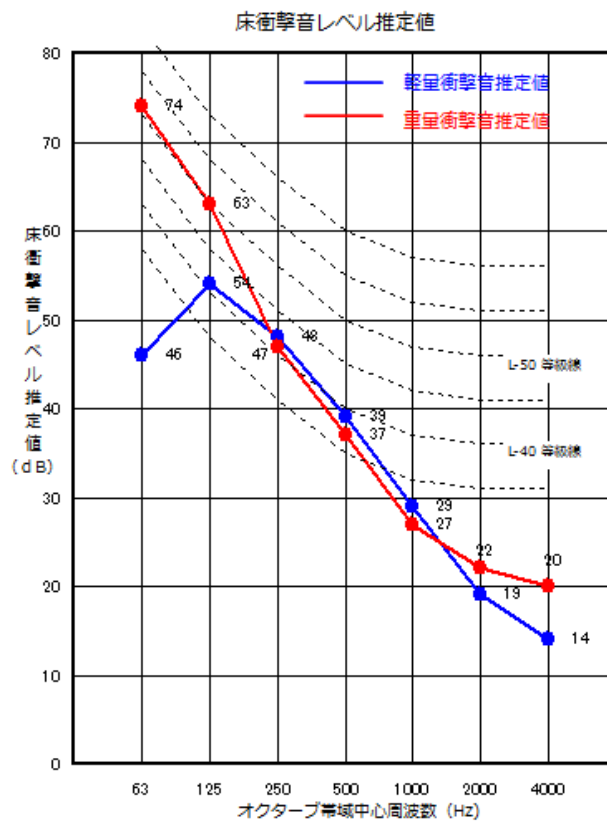
### 2-2 基本断面



### 2-3 特長

#### ●遮音性能

(普通コンクリート 150mm で財団法人 建材試験センターにて試験)



#### ●強度

都市機構(旧住宅都市基盤整備公団)の基準にて確認。

※遮音性能表示は、公的機関にて、ある一定条件下で試験をした結果です。実際の現場における遮音性能は端部納まり、スラブ厚、スラブ面積等の諸条件により異なります。

### 3.材料

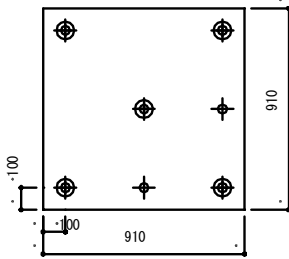
#### 3-1 材質

部材名		材質	備考
SS 床パネル		パーティクルボード JIS-M18 厚み 20 mm	・パネルのサイズ 6 種類
支持脚	K ナット		・15、35、50 mmを床高さにより 使い分け
	ボルト	SDG ボルト	ポリアミド樹脂(ナイロン 6) SBR 製 15 mmゴム座付
		SS 赤ボルト	ポリアミド樹脂(ナイロン 6) SBR 製 5 mmゴム座付
SSパット		発泡PE緩衝材	・Kナット 50 mm使用時に壁廻りの パネルに使用
合板		<b>広葉樹合板 12 mm</b>	・ <b>別途ご用意ください</b>

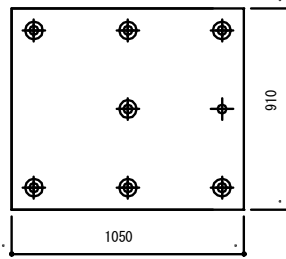
### 3.材料

#### 3-2 SS 床パネル規格

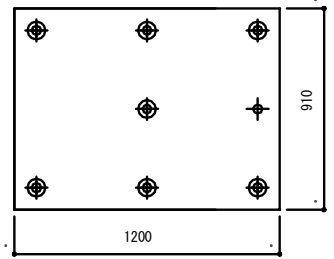
●SS-910



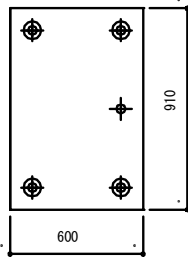
●SS-1050



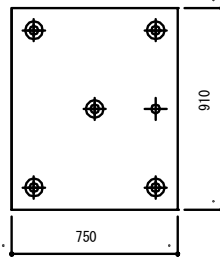
●SS-1200



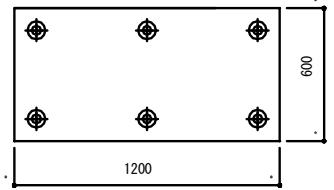
●SS-600



●SS-750



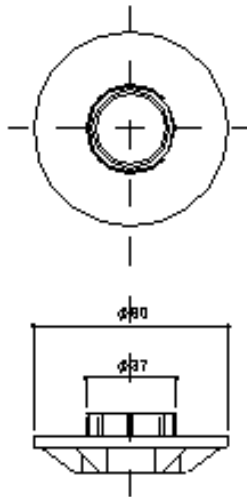
●SS-1260



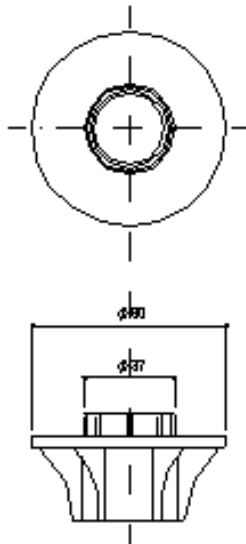
●印はナットつき  
▲印はナットなし、穴のみ(壁廻り補強用)

#### 3-3 支持脚規格

●15mmナット



●35mmナット



●SDGボルト



遮音用

●SS赤ボルト



補強用

### 3.材料

#### 3-4 床高調整範囲

SDGボルトの場合 (スラブ面から床パネルの天端まで)		
Kナット	SDGボルト	床高さH調整範囲
15mm	50mm	50mm~75mm
35mm	50mm	70mm~95mm
	75mm	75mm~120mm
	95mm	95mm~140mm
	115mm	115mm~160mm
	135mm	135mm~180mm
	155mm	155mm~200mm
	175mm	175mm~220mm
	190mm	190mm~235mm
50mm ※Lトラバー 必要	210mmL	210mm~260mm
	235mmL	235mm~285mm
	260mmL	260mm~310mm
	285mmL	285mm~335mm
	310mmL	310mm~360mm
	335mmL	335mm~385mm
	355mmL	355mm~405mm

SS赤ボルトの場合 (スラブ面から床パネルの天端まで)		
Kナット	SS赤ボルト	床高さH調整範囲
15mm	40mm	40mm~65mm
35mm	40mm	60mm~85mm
	65mm	65mm~110mm
	85mm	85mm~130mm
	105mm	105mm~150mm
	125mm	125mm~170mm
	145mm	145mm~190mm
	165mm	165mm~210mm
	180mm	180mm~225mm
50mm ※Lトラバー 必要	200mmL	200mm~250mm
	225mmL	225mm~275mm
	250mmL	250mm~300mm
	275mmL	275mm~325mm
	300mmL	300mm~350mm
	325mmL	325mm~375mm
	345mmL	345mm~395mm

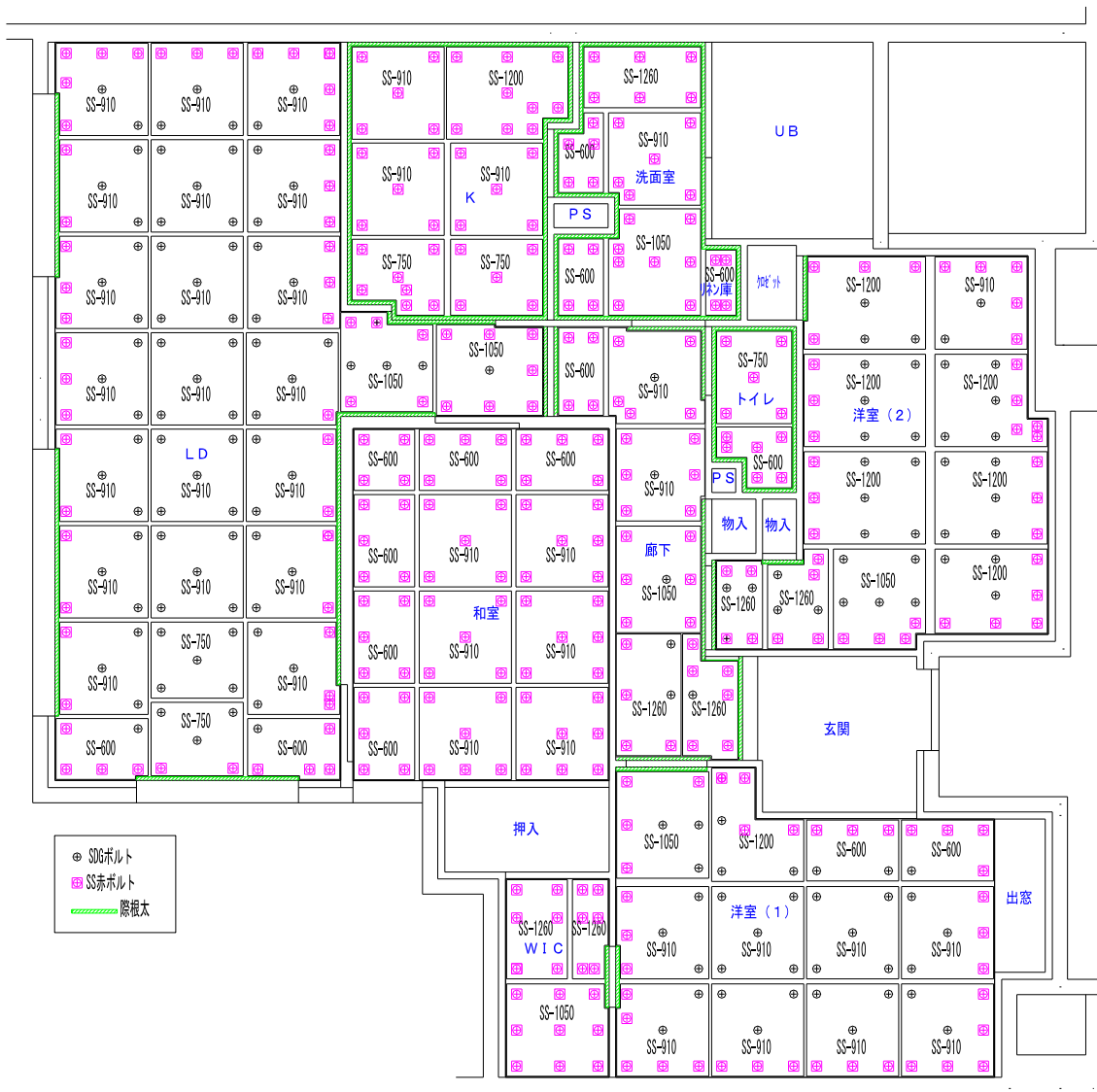
## 4.割付例

### 4-1 SS 床パネル敷き込み例

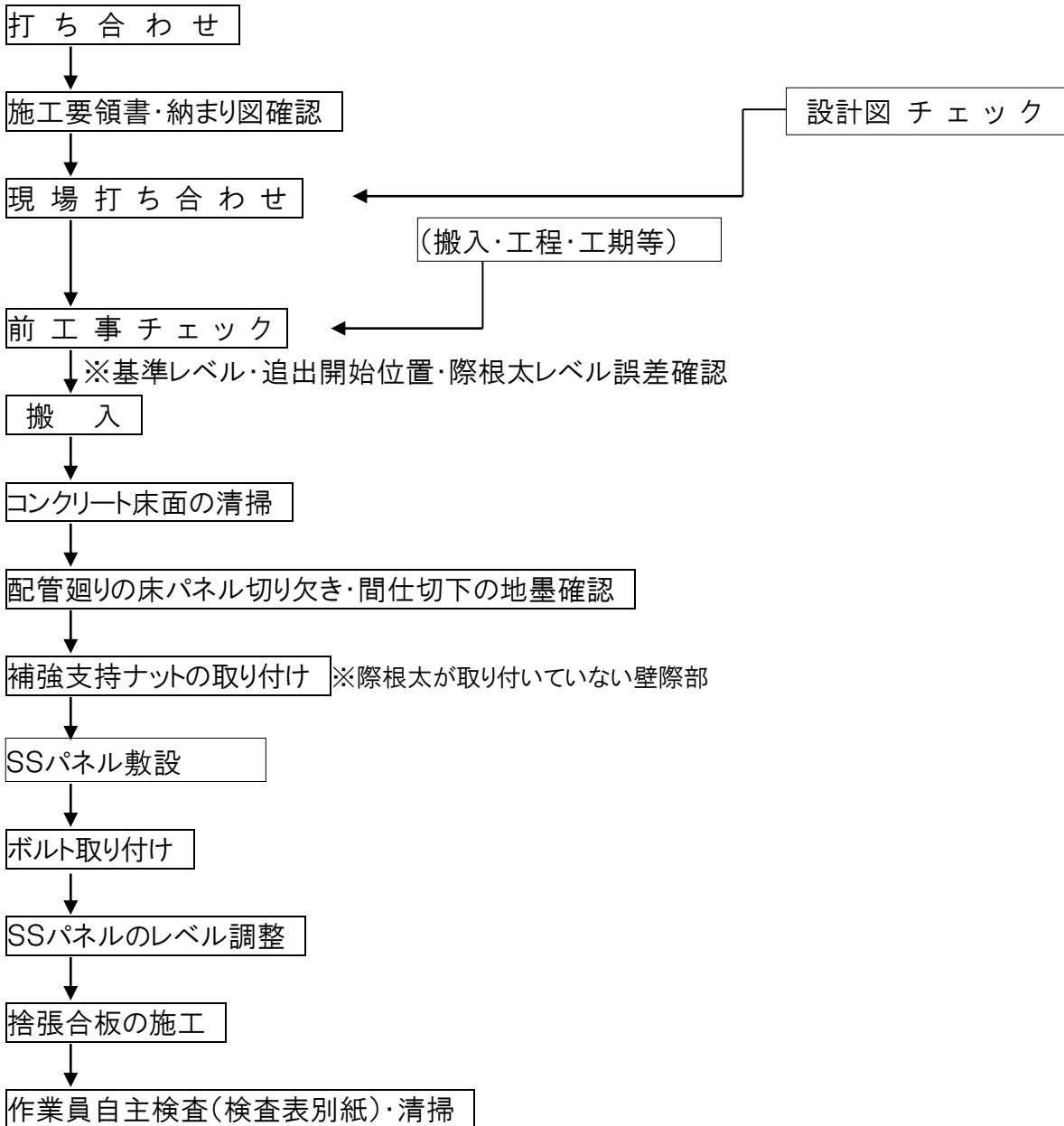
- ・割付けは SS-910(910 mm×910 mm)を主体とした割付けを行い、現場に応じてその他の基本パネルを用いる。
- ・最後の寸法調整には小さ目のパネルを選んで現場切断しなくてもすむように割付ける。
- ・床パネル間の間隔を出来るだけ均等にとって施工する。

### 4-2 捨張合板の張り方

- ・床パネルの目地に対しては 150 mm程度のかかり寸法を確保するようにする。
- ・フレキ付ビス(32 mm以上)にてピッチ 300 mm程度にて固定する。
- ・フレキ付ビスの打ちこみの際は、床鳴りの原因になるので支持ナットに接触しないよう注意する。



## 5.現場施工フローチャート



## 6. 施工手順

### ①前工程・基準レベル・レベル追出開始位置・きわ根太レベルの確認(勾配許容誤差 3/1000 以内)

- ・必要箇所にきわ根太が取り付けしており、高さも適当か。  
この時配管の高さについてもチェックする。不適等であれば修正を依頼する。
- ・各出入り口部のレベルがあっているか、又沓ずり等が施工されている場合は床を納めた時の床と沓ずり等のバランスを考えてレベルと高さをチェックする。
- ・きわ根太のガタつきがないか。特に束がスラブと接着されているか、束が浮いていないかを確認する。

### ②コンクリート床面の清掃・確認

- ・コンクリート床面を清掃し、極端な凹凸のある場合は修正を依頼する。

### ③配管廻りの床パネルの切り欠き

- ・立ち上がり配管や出入隅部等の当たる箇所は床パネルを切り欠く。  
この時、配管と床パネルの隙間が 5mm～10mm程度とれるように切り欠く。  
切り込みは自在キリまたは電動丸ノコを使用し、余分な切り込みは避ける。

### ④補強ナットの増設

- ・床パネルを切り欠いた時や壁廻りの補強を要する箇所にナットを増設する。この時ナット穴は木工ギリ 36φ～38φ を使ってあけKナットを取り付ける。  
ナットと床パネルは「ビス3.5×16」3本以上で固定する。

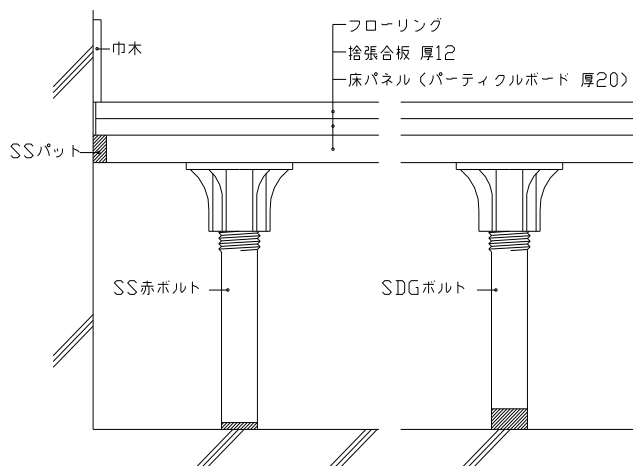
### ⑤ボルトの取り付け

ナットにボルトを取り付ける。補強用には※適宜SS赤ボルトを用いる。

※補強用SS赤ボルトは壁際部、および狭小部(洗面・便所・クロゼット・物入・収納)台所(LDK:オープンの場合はアイランドカウンターLD側端部まで)、和室に使用する。

### ⑥床パネルの配置

- ・割付図に従って床パネルを配置する。
- ・パネル間の隙間及びきわ根太とパネルの隙間は 50mm程度(許容範囲 5mm～100mm)とし、きわ根太の取り付けしていない壁際は 10mm 程度(許容範囲 5mm～15mm)の隙間をとる。
- ・Kナット50mmを使用する場合、揺れ防止の為、壁際にはSSパットを使用します。(パネル1枚あたり2個)





### ⑦床パネルのレベル調整

- ・レーザー水準器もしくは 600 mm以上の水準器を使用し、支持脚ボルトをレベル合せする。

### ⑧捨張合板の施工

- ・レベル調整を終えた床パネルにはすぐに捨張合板を施工する。

捨張合板の固定はフレキ付ビス 32mm以上にて、3尺×6尺1枚に対して 45 本程度(9列×5列)とし、なおかつ、パネルジョイント部の両端にも必ず打つようにする。

- ・捨張合板と床パネル目地のかかり寸法は 150mm程度とする。

- ・パネル目地及び支持ナット部への釘の打ち込みは、床鳴りの原因となるおそれがあるため、避けるようにする。

### ⑨床下地施工確認・片付け・清掃

- ・床下地施工後、部屋全体を歩いてみて、釘の打ち忘れ、床鳴り、床の沈み込み、浮き上がり、段差などが無いかチェックする。

⑦のレベル基準をデジタル水平器にて確認する。

- ・工具の片付け・切断粉等の掃き掃除・清掃を行う。

※下地完了後は床システムの破損原因となるので、重量物の仮置きはしないようにすること。

7.施工検査表

検査内容	検査結果
レベルが出ているかを確認する。  (3/1000 mm以内)	_____ _____ _____
壁廻り、柱廻りとの取り合いを確認する。	_____ _____ _____
立ち上がり配管が、接触していないかを確認する。	_____ _____ _____
ボルトの調整忘れがないかを確認する。	_____ _____ _____
きわ根太やフリーフロアの接合部への固定が正しく施工されているかを確認する。	_____ _____ _____
フリーフロアの上を歩き床鳴りがないかを確認する。	_____ _____ _____